

6月17日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(コリント人への手紙第一 第12章 27節)

集まることが難しい COVID-19 の事象の中で、わたしたちがキリストのからだであって、ひとりひとり各器官であるということは、どういうことなのだろうか。パウロが遠くにいる人々に手紙を書いたように主がご自分の愛と恵みを教える役目を与えられた方々、主がいやしに用いられる医療関係者の方々、主が困窮する方々を経済的に助けられるために用いられる方々、主がこの世も治められるわざに用いられる国や地方自治体の新しい政策や制度を作ったり、今の事象にあわない政策や制度の変更に関わったりする方々、ますますひとりの力ではこの世で生きていくのが難しくなるなかで、主が子どもたちやまだ各器官として協力しあうことが完全ではないわれわれに協力しあうことを教えられる不思議なわざに用いられる親や学校の教師、共同体で模範とされる役目の方々を想う。

わたしたちが究極を目指して完全な各器官としての働きの理想を見て主から勇気と平安をいただきつつ、キリストの目から自分たちと自分たちの周りの今の状況を見、すべきこととすべきでないことを見分ける知恵をいただき、自分が今日すべきことは今日することができますように、お祈りいたします。

6月19日の黙想を受けて(ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます)

(コリント人への手紙第二 第12章 9節)

自分や周りの人々の弱さがますます明らかになる COVID-19 の事象の中で、主イエス・キリストが「わたしの力は、弱さのうちに完全に現れる」と宣言される。どのように主の力はわたしたちの弱さのうちに現れるのだろうか。家で仕事をしていると、仕事と日常生活の切り替えが難しい。仕事のことが気になって自分の子どもを車に放置して忘れてしまった悲惨な事件があったが、他人事ではない。

わたしたちが、それぞれの瞬間に集中すべきことに集中することができますようにお祈りいたします。

(まさお)